

多様化する出役体制の拡充ニーズに

委員長 下岡正宏氏就任 どう応えるか!?



広酪は、六月に開催の地区懇談会、第二十三回通常総会の席上、組合員からは、酪農ヘルパー員の出役体制を、現行の「夕・朝を一セット」として出役に加えて、「朝・夕を

冒頭、同委員会を構成する委員の中から委員長互選を進め、下岡正宏氏が委員長に選任し、組合長の諮問事項に

協議の結果、利用者からの拡充ニーズを満たす方法のひとつには、現状の酪農ヘルパー員十六名からの増員による充実を図る必要も生じるとの前提に

「一セット」、「昼間の飼料給与管理」のための出役、更には、若い後継者が育っている西部事業所管内からは、「利用希望が集中する休日等での利用体制の拡充」を求めるとする意見・要望があがったこと

を受けて、岩竹代表理事組合長は、これら要望への検討を開始するため、酪農ヘルパー事業円滑化推進委員会の委員を委嘱し、同時に委員会を招集し、前述課題への対応を諮問した。

また、酪農ヘルパー員から変則的な出役課題に対する改善要望を受けて、この対処方法を協議した。この対処には、利用者側の理解と協力が必要となる事案だけに、執行者と利用者、酪農ヘルパー員による三者合同の話合いの場を設けて解決に努力することが適当と意見集約した。

■平成 29 年度酪農ヘルパー事業円滑化推進委員の氏名 (敬称略)

氏名	所属	氏名	所属
下岡 正宏*	広酪生産委員	和田慎吾	広酪総務委員
温泉川寛明		淵上増廣	
田邊 輝之	備北地域	西原嘉一	北部地域
新舎 和久	東部地域	渡辺和裕	西部地域
東方田了一	酪農ヘルパー員	岩竹重城	広酪代表理事組合長
長尾慶太		鈴木道弘	広酪代表理事専務
高橋 啓		-	-

*は委員長

ちよつと聞いてよ

聞いてよ

- ▼日本の食料自給率をご存知ですか？食品全体の自給率は、カロリーベース三十八%で一ポイント低下し、生産額ベースは六十八%と二ポイント増加したそうです。
- ▼諸外国の牛乳乳製品自給率(平成二十五年)の試算は、オランダが最高で二百二十四%、次いで豪州百四十六%、フランスとドイツが百二十三%で続きます。
- ▼日本国において、平成二十八年度の牛乳乳製品の自給率(重量ベース)は、前年並みの六十二%とのことです。
- ▼国内生産量が減少する一方で、輸入乳製品量の減少もあり、前年と同水準と変化が無かったそうです。
- ▼国民一人当たりの牛乳乳製品の年間供給量は九十一・三kgで〇・二kg増加したそうです。
- ▼一日当たりの供給熱量に置き換えると、百六十・一kcalで〇・五%増。一日当たりの栄養素でみた場合、タンパク質換算では八・〇gの〇・五%増、脂質換算では八・八gで〇・五%増とのことです。
- ▼飼料自給率は二十七%、粗飼料自給率七十八%と何れも一ポイントの低下で、濃厚飼料は十四%と前年並みとのことです。
- ▼国の食料自給率の行く末は、果たしてあるべきでしょうかね？



地域活性化助成金 三百万円配分を決定

広酪は、平成二十九年年度広酪活性化活動助成金三百万円の使途及び地域配分を協議するため、県内十五の酪農任意組織団体の代表者を参集し、九団体の代表者が出席した。

活性化活動助成金の目的は、各地域において組合員が組織する団体が酪農技術、経営レベル向上などを目的に取り組まれる研修会や勉強会等を開催し、地域活動を活性化させるために活用頂き、協議決定した配分額を限度に各団体の事業計画に掲げる活動内容をもって、八月四日(金)を提出期限とする申請書の提出を案内し、八月二十一日(月)に指定預金口座への振込むこととした。

協議後の意見交換では、広酪の事業活動等への意見要望を聞き、「九月開催の地区懇談会は対話ので

酪農任意組織団体への活性化活動助成金の配分内容 (単位:円)

地域	任意組織団体名称	配分額
備北	庄原地域酪農振興会	346,875
	三次市酪農振興会	328,572
	東城酪農振興会	122,241
	口和町酪農組合	70,379
	西城酪農クラブ	65,232
	高野町酪農組合	66,712
	小計	1,000,011
南部	賀茂地域酪農団体連絡協議会	241,829
	小計	241,829
西部	北広島町酪農団体連絡協議会	428,783
	広酪西部地域組合員連絡協議会	87,475
	あきたかた酪農振興会	347,869
	小計	864,127
東部	福山地方酪農協議会	146,184
	神石地域酪農生産振興協議会	55,694
	世羅郡酪農振興協議会	219,930
	三原市酪農振興会	104,906
	甲奴郡酪農組合	367,319
	小計	894,033
	合計	3,000,000

きる時間はどのくらいか」、「倉庫の開所日は隔日で三日間を望む」、「自給飼料が無いこともあり、乾草をストックする倉庫が無い。また、繋がりの場として残すことも考えて欲しい」、「農家担当の意味は何か。組合員も減少している現状もある。現在、職員が機能していない。倉庫を廃止し、配達に任せると必要ではないか」などの意見を聞いた。

これに対して、岩竹重城組合長からは「九月開催の地区懇談会には、多くの組合員へ出席頂き、事業所・倉庫の在り方について、意見を頂きたい」と述べた。

平成二十九年分の要望申請十一件 総事業費約四千万円の順位付けを審議



広島県酪農収益強化対策協議会(畜産クラスター)会長 岩竹重城【事務局・広酪】

は、第二回目の幹事会を開催し、平成二十九年年度において酪農家からの要望件数十一件を受けて、その優先順位付け並びに(公社)中央畜産会への申請進達の取り扱いは、約四千万円。審査は、要望者から直近二年間の決算、申告等の資料提出を求めている。投資に伴う将来の支払余力の点にも焦点をあてて慎重に協議された。

同協議会では、組織設立以降、平成二十六年事業では自走式マニユアスプレッダー等の物件十三件の費用総額八千五百八十一万円、平成二十七年事業では、自動給餌機等の物件七件の費用総額四千四百二十八万円の合計

一億三千九万円の申請手続きを終え、すでに対象物件の利用が開始されている旨を報告した。この費用総額の半額は、国の畜産クラスター事業による補助金が得られている。これら補助金を受けて実施した二十件の機械導入事業の効果検証を進めるため、申請者によって個別に目標として掲げられた、①コスト削減、②販売額増加、③飼料自給率向上の何れかの数値確認にあたった。

同協議会の役員は、次のとおりであり、今回の幹事会において、幹事一名の交代案を付議し、市川貴英氏(全酪連)に代わって牛島隆一氏(全酪連)が就任することになった。

役員体制 (敬称略)

役職	氏名
会長	岩竹重城
副会長	鈴木道弘
監事	後案勝也
幹事	川角晴俊
幹事	和田慎吾
幹事	牛島隆一

平成二十九年七月二十六日以降の役員体制は、次のとおり。